

80年代アニメ論・その1

伝説のアニメ雑誌

月刊O U Tを君は知っているか

出口 憲

今日の講演内容

- はじめに
- 1980年代とアニメ
- 80年代のアニメ雑誌
- 月刊O U Tとは
- まとめ

はじめに

- なぜ、こんな話をするのか？
- 昨年の学内学会の懇親会で、アニメの話で盛り上がってしまった
- 次回の学内学会で「月刊OUT」を取り上げようと古市先生から持ちかけられた
- 現在に至る

はじめに

- 出口は1969年生まれ
- 1980年代は11～20歳だったので、まさしく80年代のアニメを見て育った
- 11歳のとき、ガンダムがブームとなり、中学で友達からザブングル（後述）を見るように勧められ、以後アニメを見まくるようになった
- ビデオデッキを買ってから、放送時間が重なるものはほとんど録画（週20～30本くらいは見ていたはず）

1980年代とアニメ

1980年代とアニメ

- 1979年「機動戦士ガンダム」
- 本放送時は人気がなく、全52話の予定が43話で打ち切り
- ところが、空前のガンプラブームが起こり、ガンダムは映画化される
- ガンプラを手に入れるため、学校を休む子どもや、行列で将棋倒しとなり死者が出るほどの事態に発展
- ガンダム映画化のイベント「アニメ新世紀宣言」で、富野喜幸（現・由悠季）は、アニメは低俗なものではないと発言

1980年代とアニメ

- 富野はガンダムの後、**伝説巨神イデオン** (1980年)、**戦闘メカザブングル** (1982年)、**聖戦士ダンバイン** (1983年)、**重戦機エルガイム** (1984年)、**機動戦士Zガンダム** (1985年)を立て続けに製作
- 1982年、スタジオぬえによる「**超時空要塞マクロス**」
- ガンダムやマクロスは、映画化もされ、現在まで続くシリーズとなっている
- 当時はそれまでにない新しい設定のアニメが次々登場し、飽きることはなかった

1980年代とアニメ

- 1982年「魔法のプリンセスミンキーモモ」
- それまでも魔法少女アニメは数多くあったが、「大きいお友達」という新しい層を対象とした魔法少女アニメの原型となる
- 魔法の天使クリィミーマミ (1983年)、魔法の妖精ペルシャ (1984年)、魔法のスターマジカルエミ (1985年)、魔法のアイドルパステルユーミ (1986年)、…、カードキャプターさくら (1998年)、魔法少女まどか☆マギカ (2011年)等へ続く
- 私はクリィミーマミが一番よかったと思う

1980年代とアニメ

- 1983年、テレビ放送を前提としないビデオ媒体のみの「ダロス」が製作される
- 以後、OVA(Original Video Animation)と呼ばれる新しいジャンルが確立する
- 80年代を代表するOVAとしては「メガゾーン23」(1985年)が挙げられる
- 「メガゾーン23」はマクロススタッフ等が参加、話題になった
- 美少女、メカアクション、〇〇シーンなどマニア受けする要素

1980年代とアニメ

- すでに「**宇宙戦艦ヤマト**」(1974年)によるアニメブームがあった
- だが、今まで見てきたように1980年代に入ってアニメは成熟期に入ったといえる
- 子供時代からアニメを見てきた層の成長に合わせ、大人が見ても耐えられるような内容のアニメが登場
- 今では「**オタク**」と呼ばれるようなアニメファンの登場がアニメを変化させた

1980年代とアニメ

- 「オタク」という言葉は「超時空要塞マクロス」で主人公の一条輝が相手を呼ぶ時に用いていたのが元だといわれている
- そもそも、コミックマーケット（コミケ）で、他の団体に対して、「おたくのところの同人誌は…」のように用いられていたものが、上記のようにアニメ内で取り上げられ広まったといわれている
- 一般に広まったのは1989年の宮崎勤事件からである→オタクに対するネガティブな印象

80年代のアニメ雑誌

80年代のアニメ雑誌

- 1977年「**OUT**」(みのり書房)
- 1978年「**アニメージュ**」(徳間書店)
- 1979年「ジ・アニメ」(近代映画社)、
「アニメック」(ラポート)
- 1980年「ファンロード」(ラポート)
- 1981年「**アニメディア**」(学研)、
「マイアニメ」(秋田書店)
- 1985年「**ニュータイプ**」(角川書店)

※ 上記の西暦は創刊年、**青字**は現在もあるもの

80年代のアニメ雑誌

- 一般のアニメファン向け：アニメージュ、アニメディア
- コアなアニメファン向け：O U T、アニメック、ファンロード
- ニュータイプ：Zガンダムのために創刊されたので後発

※ 上記の分け方は完全に主観によるものであり客観的なものではない

※ ファンロードはアニメ雑誌とはちょっと違う

月刊OUTについて

月刊O U Tの概略

- 最初は、アニメ雑誌というよりもサブカルチャー全般を取り上げる雑誌だったらしい（このころのことは知らない）
- 宇宙戦艦ヤマトの特集をしたところ、売上が伸びたため、徐々にアニメ雑誌へ変貌
- 単なるアニメ情報誌ではなく、アニメのパロディ、勝手な企画、読者投稿（感想・批評、漫画、テーマを決めたお題に答えるもの）などが充実

月刊O U Tの読者

- 読者投稿の充実がマニア受けした原因と考えられる
- O U Tの男性読者は「アウシタン」、女性読者は「アウシターナ」と呼ばれ（自称し）た
- 読者の中から漫画家やアニメ製作者になったものが多数いる
- 私の場合、O U Tは買っていなかったが、友達の中で購入するアニメ雑誌等が自然に分担されており、回し読みしていた

参考：ファンロードの読者

- 同じく読者投稿が充実していた「ファンロード」もマニア受けした雑誌であり、O U Tと双璧をなした
- おそらくO U Tと読者層はほぼ一致する
- ファンロードの読者は「ローディスト」
- 本屋で読んでいるときなどに「貴様ローディストだな！ローディストに違いあるまい！」という声掛けのネタが有名
- こちらも読者の中から漫画家やアニメ製作者になったものが多数いる

月刊O U Tの内容例 1

- ガンダムがブームになりつつあった頃に、「悩ましのアルテイシア」という付録(1980年3月号)が話題になる
- ガンダムの監督である富野は、「ねえ！どうせ出すならもっときれいに描いてくれないの！おじさんきれいじゃないと…(以下、自粛)」という感想を述べたという
- アルテイシアとはガンダムのセイラ・マスの本名である
- 映画はセイラの入浴シーンがTV版より長い

月刊O U Tの内容例2

- 世界名作劇場「小公女セーラ」についての読者の感想「ひまわりは影を知らない」(1986年5月号掲載)
- 内容はプリントで配布します
- 小公女セーラのエンディングテーマ曲は「ひまわり」だった
- セーラの声優はクラリス（ルパン三世「カリオストロの城」）やナウシカでも有名な「島本須美」
- 私も毎回見ていました

月刊O U Tの内容例 3

- サンライズ宇宙史・地球編、同・宇宙編
(1986年10、11月号にて掲載)
- ガンダム等の製作会社である「日本サンライズ」のほぼ全作品を同一の時間軸上に並べ、無理やり関連付けさせたもの
- 作品を知らないと何が面白いのかわからないかも
- 実物を回しますので、どうぞご覧ください

月刊O U Tの増刊

- 「ガンダムセンチュリー」
「機動戦士ガンダム」の背景や理論的な基礎づけを行い、後のガンダム作品で正式設定として取り込まれたもの多数
- 「マクロス・パーフェクト・メモリー」
「超時空要塞マクロス」の初期設定なども含む資料で全260ページ（実物があるのでご覧ください）
- 他にもバイファム、ボトムズのものもあり

月刊O U Tの休刊

- 1990年代になると、マニア向け過ぎたことが災いし、新しい読者を取り込めなくなったと思われる
- 内容を徐々にアニメ情報誌へ転換
- 1994年11月号から英語表記をカタカナ表記へ変更し「月刊アウト」となる
- 1995年5月号で休刊

まとめ

- 1980年代はアニメの成熟期であり、その時代に「O U T」というコアなアニメ雑誌があった
- 「O U T」はアニメのパロディなど、現在の同人誌で当たり前となっているジャンルを確立させた
- 現在のアニメ（オタク）文化を考える上で「O U T」は外せない存在といえる

今後へ向けて

- アニメックとファンロードも紹介したい
- 富野由悠季とその作品も扱いたい
- 日本サンライズの作品も分析すると面白い
- マクロス、オーガス、サザンクロス
- モスピーダ、メガゾーン23
- ただし、80年代(90年代になるとアニメが極端に減った、見たものも減った、もちろん、わかるものもあるけどね…)

参考文献等

- Wikipedia, <https://ja.wikipedia.org>
- でめでくのブログ～月刊O U Tの世界、
<https://ameblo.jp/g-fock/>